株式会社 松栄

26年度〈事業計画名〉
自動充填機ライン導入による乾燥カットわかめの生産プロセス革新

Data
［代表者名］代表取締役社長　岩﨑 誠　［設　　立］1987年３月
［実施場所］〒022-0001　岩手県大船渡市末崎町字峯岸146-16
TEL.0192-29-2848　FAX.0192-29-2853
E-mail . shouei2@rmail.plala.or.jp
［ＵＲＬ］http://w-shouei.jp/shouei/
［資 本 金］1,000 万円　［従業員数］18 名
［事業内容］わかめ、コンブ加工品の製造、販売

新たなわかめ自動充填機の導入により生産能力の向上と製造原価の低減を実現

商品競争力強化のため、製造工程の「充填・パッケージ」に新たなラインを導入。生産能力のアップと製造原価の低減、社員の勤務環境の改善、人材不足対策などさまざまなメリットを得ることができた。

生産力アップと人材不足をいかに両立させるかという課題に向き合う

当社は、三陸産のわかめやコンブを原料に、乾燥カットわかめや塩蔵わかめなどの海藻加工を行っている。産地で採れた原料を産地で加工し、多数の国内大手メーカーに直送する当社の生産体制は、全国的にも高く評価されている。

こうしたなか、競合他社の商品に対抗するためには、生産プロセスの革新により生産能力の大幅な増強と製造原価の低減を図ることが求められていた。

また、沿岸部では深刻な人手不足により従業員の増員が見込めないため、機械導入による自動化ラインの設置が必要であった。

産地で加工、産地から直送する生産体制が実現。品質のよさが高く評価されている。

自動充填機を導入し、生産工程の一部をオートメーション化

塩蔵わかめの製造工程は全てが手作業であり、工程別には「仕分け」、「計量」、「充填」、「パッケージ」の4工程に分けられる。計量したわかめを袋詰めする「充填」、封印しシール印字する「パッケージ」の工程を自動で行う自動充填機を本事業により導入し、自動ライン化した。

今回導入した自動充填機は従来の手作業に比べ、個々の従業員の作業能率による製造量に左右されることなく、これまで発生していたパッケージミスも防ぐことができ、出荷できない商品の発生も大幅に抑えられている。これにより、従業員の作業能率に左右されない、一定の生産数量と品質の確保が可能となり、従来のラインと新規の自動充填ラインを連結することにより、充填、パッケージ、ウェイトチェック、金属探知の一連作業をオートメーション化することができた。

本事業により導入した自動充填機ラインが充填、パッケージ、ウェイトチェック、金属探知の一連作業をオートメーション化した。

生産効率、及び生産量向上と製造原価の低減を実現

原料を選別する「仕分け」作業には熟練が必要。機械化による効率化は、人材の適材適所への配置も後押しする。

自動充填機の導入直後は、従業員の機械操作、作業の習得に多少の時間を要したものの、従前の約２倍の生産量を確保するまでに至っている。自動充填機の導入前は従業員を増員し、時間あたりの生産量を最大化するよう努めていたが、自動充填ラインの導入は従業員を増やすことなく、生産量のアップにつながり、人件費の大幅な削減を図ることができた。

また、作業の効率化と生産量の増加により、これまで対応できずに見送ることもあった大口受注や唐突な受注対応も可能となった。加えて従業員の残業時間も削減され、自動ライン導入以降、完全週休２日制を実施できるようになったことは、従業員の勤務環境の改善にもつながっている。

今後、会社の成長には機械化が必須と実感

東日本大震災以降、風評被害等により他の地域に比べ、西日本では三陸産のブランド力が低下し、出荷数量や価格面で苦戦を強いられている。同時に被災地の人口流出により、水産加工業への就業者不足も深刻である。こうしたなか、自動充填機ラインの導入による製造工程の自動化は、生産効率の向上、製造原価低減による価格競争力の強化、勤務環境の改善による人材不足対策にもつながるものと期待している。

また、自動ライン化は、従業員の熟練度に対する依存を軽減できること、工場の従業員数や従業員の原料見分け等教育時間の低減も図れるようになるなどメリットは大きいものがある。しかし、工場の現状は人材不足により、受注可能な数量に限界があるなど課題も多く、生産量の増量と勤務環境の両立には、更なる生産工程の機械化、自動化が必要となるため、今後も製造工程の自動化を推し進めていきたいと考えている。

代表取締役社長の岩﨑誠さん。従業員の「働きやすさも会社成長の大きなポイント」と話す。